

支店長

入社以来、施工畑を中心に歩んだ。営業は02年4月から1年勤めた福島支店長が振り出しで、以降は千葉支店長、前職の東京統括事業所長に至るまで、多くのプレーヤーがひしめく首都圏でチャンスをつかみ受注を獲得してきた。新たに担当する北信越支店は、公共事業費が減少し民間投資も減っている。市場環境は厳しいが、難局を乗り切り、収益を上げ続ける体制を構築

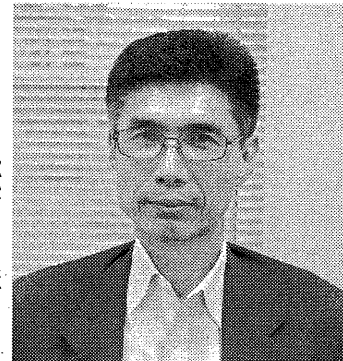
信用が受注確保の基本

するのが支店長の仕事だ。支店の運営方針はA・H・R(安全・品質・利益)の確保。「市場が縮小する中、受注確保が最大の使命。そのためにはまず『事故を起こさないこと』『確かな品質のものをお客さまに届けること』を第一線の作業員にまで徹底することが大切だ」

「顧客からの信用が受注確保の基本と考えている。内勤者であっても『現場への対応が最優先』を実践したい」

20代の若き技術者だった当時、関東地方建設局東京国道事務所発注の「亀戸舗装修繕工事」の現場代理人を務めた。「現場沿線にクレームが趣味のような人がいたが、粘り強く真摯な対応を続けた結果、現場が順調に遂行できた。施工品質も良好で関東地方建設局長表彰を頂いた」

趣味はスポーツ観戦。阪神、ロッテで活躍した深沢恵雄投手は高校の同学年。「彼が野球部、私がバレー部のエースだった」。陸上400円で活躍した高野進氏はいと。



NIPPON執行役員北信越支店長

赤池 利孝氏

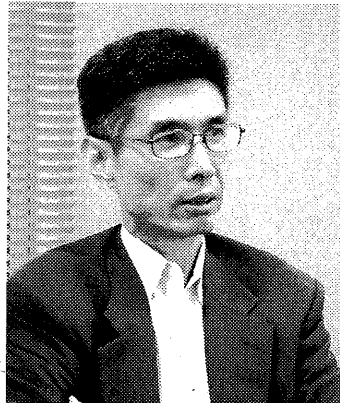
(4月1日就任。山梨県立
峡南高校土木科卒、山梨県身
延町出身、56歳)

4月1日付で就任。東京都内での勤務が長く、北陸は初めて。支店職員にはまず、「現場の問題は支店全体の問題。現場への対応が最優先だ」と訓示した。胸のステッカーには「安全」「品質」「利益」のアルファベットの頭文字をとって「A・H・Rの確保」と刻まれている。「原点到り、安全に確かな品質のものをお客さまに届けることが一番の営業になる」と強調する。

支店長席



・連・相「伝達のため、風通しの良い職場環境づくりに努めたいと語る。建築、土壌浄化、新幹線開通に伴う周辺整備など



NIPPON北信越支店
執行役員支店長
赤池 利孝氏

「北陸新幹線関連の仕事もあるものの、市場は厳しい状況にあり、競争はさらに激化する」と見做されており、最大使命である受注確保に向け、職員には「与えられたポジションで何が最善か、目的意識を持って行動すること」を要請。円滑な「報通省」発注の夜間工事が

安全、品質確保が一番の営業

中心だった。近隣調整で難航が現実視されていた地区の舗装修繕工事で、足繁く通いつめた熱意がキーマンに通じ、一度も現場を止めることなく完工させ、関東地建(現関東地整)局長表彰を受賞した。「誇りです」とのことばに銜がない。

高校時代はバレーボールのエース。座右の銘は「有言実行」。竹を割ったような物言いと面倒見の良さが人望を集めるゆえんだ。

1974年3月峡南高校土木科卒後、日本舗道(現NIPPON)入社。前職は東京統括事業所長。山梨県出身、56歳。